

開催日時：2016年3月21日（月） 12:30～13:30

開催場所：東北学院大 BL 会場

出席者

領域代表（任期 2015/04-2016/03）：遠山貴巳（東理大理）

領域副代表（2015/04-2016/03）：佐藤憲昭（名大院理）

次期領域副代表（2016/04-2017/03）：常次宏一（東大物性研）

現運営委員（2015/04-2016/03）

谷田博司（広大院先端研）、松浦弘泰（東大院理）、池内和彦（CROSS）、酒井英明（阪大院理）

現運営委員（2015/10-2016/09）

八島光晴（阪大基礎工）、三澤貴宏（東大院工 → 東大物性研：所属変更）、清水直（理研）、太田幸宏（原子力機構 → RIST:所属変更）

次期運営委員（2016/04-2017/03）

近藤晃弘（東大物性研）、那須譲治（東工大院理工）、石田行章（東大物性研）、北川俊作（岡山大理 → 京大：所属変更）、足立 匡（上智大理工）

13:30 分前後の出席者数：25名程度（上記運営委員を含む）

議題1 第71回年次大会サマリー

領域8での講演数、プログラム編集の流れが報告された。

A. 講演数：全体で476件（前回（70回大会：早稲田大）では、566件）

B. シンポジウムに関して

シンポジウムの提案が5件あった。原則3件以内であり、3件採択し、一件は企画講演として開催、一件は不採択とした。また、今回はアメリカ物理学会と日程が重なったため、提案者との日程調整を行った。

シンポジウムの略称を決定しづらいことがあった。→ 稀な例なので、今後は提案者に個別に対応していくことになった。

以下、採択されたシンポジウムと企画講演を示す。

3月19日 13:30～16:50 BQ 会場（領域8, 3, 7）

提案者 Kosmas Prassides（東北大 AIMR）

「Commonalities and individualities in unconventional superconductors」

3月20日 13:30～17:00 DB 会場（領域8, 3, 4, 5）

提案者 広井善二（東大物性研）

「対称性の破れと量子位相流」

3月21日 13:30～16:55 DB 会場（領域8）

提案者 芝内孝禎（東大新領域）

「FeSe のエキゾチック超伝導」

企画講演 3月21日 9:15～9:45 AK 会場

講演者 清水克哉（阪大基極セ）

「硫化水素の高圧誘起高温超伝導」

企画講演 3月21日 9:45～10:15 AK 会場

講演者 明石遼介（東大理）

「硫化水素超伝導の理論的研究の現状」

C. 招待講演、若手受賞講演、合同セッション

招待講演 3月19日 13:30～14:00 BL 会場

講演者 鶴田篤史（阪大基礎工）

「四極子近藤格子の理論：Pr 1-2-20 系の異常物性をめぐって」

招待講演 3月20日 13:30～14:15 BL 会場

講演者 Jacques Flouquet（CEA-INAC, Grenoble）

「Ferromagnetism and Superconductivity: evidence on three U intermetallic compounds」

招待講演 3月22日 9:00～9:30 BL 会場

講演者 土射津昌久（名大理）

「汎関数繰り込み群法による多軌道強相関電子系の解析」

若手受賞講演 3月21日 9:15～12:00 BL 会場

受賞者：近藤 猛（東大物性研）、酒井志朗（理研 CEMS）

中山耕輔（東北大理）、松林和幸（電通大先進理工）

渡辺悠樹（東大工）

合同セッション 4件

2. 領域委員会（H27年11月開催）報告

二点報告があった。

A. “男女共同参画の意思に基づき、出来れば今後、女性委員の増加を考慮いただきたいとの、会長の意見。（現在、物理学会の女性は全体の5%）” の報告があった。

B. 学部学生ポスターセッションについて

核物理領域から学部学生のポスターセッションの提案がなされたことが報告された→インフォーマルミーティングでの議論の結果、領域8では、既に多くの学部学生が発表しており、学部学生ポスターセッションは必要無しとの結論になった。

3. 新領域代表、新領域副代表、新領域運営委員の紹介

新領域代表(2016/04 -2017/03) 佐藤憲昭 (名大理)

新領域副代表 (次期領域代表) : 常次宏一 (東大物性研)

運営委員 (2015/10-2016/09) :

(磁性) 八島光晴 (阪大基礎工/実験)

三澤貴宏 (東大物性研/理論)

(低温) 清水 直 (理研/実験)

太田幸宏 (RIST /理論)

新運営委員 (2016/04-2017/03) :

(磁性) 近藤晃弘 (東大物性研/実験)

那須譲治 (東工大院理工/理論)

(低温) 石田行章 (東大物性研/実験)

北川俊作 (京大/実験)

足立 匡 (上智大理工/実験)

が紹介された。

#### 4. 次次期領域代表の推薦および承認

次期領域副代表 (2017/04-2018/03)、次次領域代表 (2018/04-2019/03) として、吉村一良氏 (京大理) が推薦され、承認された。

#### 5. 次次期領域運営委員の推薦および承認

次々期運営委員 (2016/10-2017/09) として、

(磁性) 本多史憲 (東北大金研/実験)

赤城 裕 (東大理/理論)

(低温) 笠原 成 (京大理/実験)

鮎川晋也 (青学大理工/実験)

が推薦され、承認された。

#### 6. その他

##### 1. プログラム編集会議の開催方式について

##### 1-a. 現在のプログラム編集会議のやりかたについての意見

- ・メールで議論するにはやっかいな細かい事が、編集会議であつまり議論すると決めやすい。
- ・座長を決めるには、現在のシステムだと編集会議に行く必要がある。

- ・関東近郊でない場合、参加しづらい（編集会議が関東近郊の人ばかりになる）
- ・編集会議での経費が物理学会の予算から見てどの程度なのかがはっきりしない。

#### 1-b. 今後のプログラム編集会議の開催方法の案

- ・編集会議開催場所から近くの人（例えば関東近郊）は集まり、遠い方はスカイプ等を利用し編集会議を行う。

### 2. 領域メーリングリスト(ML)について

領域8全体のメーリングリストの登録数633件。現在、東北大理物性理論のサーバーを利用。楠瀬氏（明治大）、東北大理物性理論学生ボランティアにより成り立っている。

議論の結果、事務局から提供されるMLでは、1MLあたり1000件まで登録可能なため、学会のMLを希望することになった。Addressの登録に関しては、今後の議論となった。

### 3. 海外講演者（招待、一般）がセッションに含まれる場合の言語

海外招待講演者を含むセッションの座長が、講演者に直接、英語講演の依頼を行った。本件に関して、プログラム運営委員がどこまで対応すべきだったか、今後どのようにすべきか議論になった。本内容は今後の学会の英語化と関連するため、多くの議論がなされた。

以下、インフォーマルミーティングで出た意見を箇条書きにする。

- ・発表スライドだけを英語にし、発表は日本語で行ってもよいのでは。
- ・“特定のセッションだけの英語化“を行ってしまうと、英語化する際の要件を明確に示す必要がある。この要件分けは非常に複雑であるため、”特定のセッションだけの英語化“は良くない。
- ・“領域8では英語化を推奨する”としたら、どのようにアナウンスしたらよいのか？どこに明示すべきか？
- ・特定のセッションだけを英語化したとして、どのように発表者に伝えるのか？また、英語のセッションになった際、講演セッションの変更の申込みが現れるのではないのか？
- ・英語化すると、外国人が参加しやすくなるのではないのか？最終的には、全講演を英語講演にすることを目指して、移行期間（数年）を設けるのはどうか？
- ・英語化するために、運営委員あたりから英語化を始める。
- ・領域8だけで英語化を行うのか、領域全体として英語化を行うのか、領域8内だけで議論だけでなく、領域委員会レベルでの議論が必要なのではないのか？

などの意見がでた。

領域 8 では基本的には英語化を推奨することになった。一方、領域ごとに英語化を進めていくのかすべての領域で行うのかをはっきりさせる必要があるため、領域 8 内での個別判断はしないということになった。また、アナウンスの仕方やどこまで英語化するか等は今後の議論となった。